

## 当直日誌 2017 総集編（もはや医局日記ですらなくなってしまう感じがございますが）

年の瀬も迫り、何かと気ぜわしい中、皆様如何お過ごしでしょうか。

最近では 60 代男性教授が、奴にネタを晒されるくらいならば、とご自身で自虐ネタを熱心に投稿しており、あれ以上のネタとなると、流石の私も表に出すには憚られるネタばかりなので、当直日誌も休刊という名の廃刊？としておりました。

しかし、例の 60 代男性教授の天下も後 3 ヶ月あまりとなるなか、私の再就活活動もうまくいかず、日々是憂鬱の候なので、気晴らしにキーボードを叩いています。

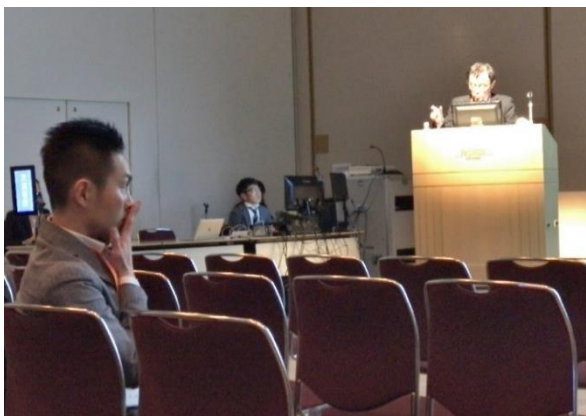
さて、そんな私に数々の試練を与え、私の人格を陶冶していただいている U 川教授の近況はといいますと、流石の彼も盛者必衰、実者必虚の理には逆らえず、月一以上で海外出張し、教室で過ごされるよりも、ビジネスクラスの機内や空港の VIP ラウンジで過ごされる時間の方が長い生活も来年度からは一変し、国内にいる機会が増えるらしいです。孫の相手でもして過ごす平穏な日々が、かの U 川教授にも訪れるのでしょうか？まあ、10 年くらいは無理なような気がします。

もっとも、先日は今年最後のお勤めとばかり、マニラから帰国した翌日にはベルリンに旅立ち、帰国したついでに夜に福島に寄って、そのまま車を運転して東京に戻った挙げ句、そのまま横浜の学会に参加という荒技を見せていました。これが今年最後の海外出張と宣われておられますが、この後ソウルにも行かれる予定です。パスポートが必要なので忘れないようにして下さい。今度は忘れても届けません。

### [「パスポート持ってこい事件」](#)

こんな強行軍でも、かつては平然として、講演や会議で眠ってしまうなど考えられませんでした。しかしそんな彼も年には勝てないようです。我が教室のホープ、村 K 君の学会奨励賞受賞記念講演で、U 川教授への感謝を述べているまさにその時に真っ白な灰になっていました。こんなに疲れていても村 K 君の講演を聴きに來るあたり弟子への愛が垣間見えました。ここで、私ならば壇上から宇 G 教授を優しく起こして差し上げるところですが、M 上君はにこやかに感謝を述べていました。師匠への愛が垣間見えました。

美しい師弟愛の[映像](#)です。



一方、翌日の U 川教授の学会賞受賞記念講演では、私なら仕返しに最前列で鼾をかいて眠るところを、M 上君は真剣に聞いているフリをしていました。そんな付度上手（素面のトキに限る）な彼はきっと偉くなることでしょう。

## 二人の高弟

さて、師弟関係というとU川教授には二人の高弟がおられます。といってもラ王とトキではありません。磁気刺激は一子相伝でもないので、私のコイル持ちとしての技術はすべてこのお二人のご指導によるものです。

お一人は、米GにおられるH島教授ですが、今や宇G教授よりご高名で、こちらの御方を弄ると今後神経内科医として日本ではやっていけなくなりますので、さしもの私もコメントは控えます。

もうお一方は杏R大学の生理学教室のT尾教授です。こちらは高校も大学も宇G教授と同窓という筋金入りですが、U川教授とは正反対にとっても紳士的な方です。しかし、浮世離れしているという意味では甲乙付けがたい存在ではあります。

### 共通点1 眠る

宇G教授は60歳を過ぎても気軽に実験の被検者を引き受けてくださるのですが、よく眠ります。機材のセッティングの都合から one chance の実験の被検者をやっていただいても眠ってしまいます。眠ってはいけませんというと更によく眠ります。



一方の寺O教授も睡眠をこよなく愛しています。私が宇G研究室の門を叩いた20年前、寺O教授は脳みその何処を刺激するとあっち向いてホイッが下手になるかという研究をやっておられました。私もその実験動物...じゃなくて被検者を仰せつかりました。これは暗闇の中1時間くらいひたすらあっち向いてホイッをやり続けるというもので、当然眠くなります。すると、頭の上でコイルを持つT尾教授が、そのコイルで私の頭を無言で小突いてきます。今ならパワハラ事案です。そうこうしているうちに実験が終了するのですが、それでも寺O教授からは終了の合図がありません。怒ってるのかなあ？もう一度とか言わないよなあ...とおそろおそろ振り向くと、T尾教授もコイルを持ったまま寝ていました。実はコイルで小突いていたのではなくて眠くて手が滑っていただけでした。後にして思うとあの実験で何度も被検者をやらせていただいたのは、やり直ししてたんですね。私なら3日で投げ出しそうな、その地道な研究は、当然論文になっています。

### 共通点2 寒がり

宇G教授は寒がりです。下図に示すように、屋内でもダウンベストを着ています。下着は当然HEATTECH ULTRA WARMです。実はU川教授に被検者をやっていただく際に、眠らせない方法は室温を下げることで、でも、ばれるとドン引きするほど激怒するので奥の手です。

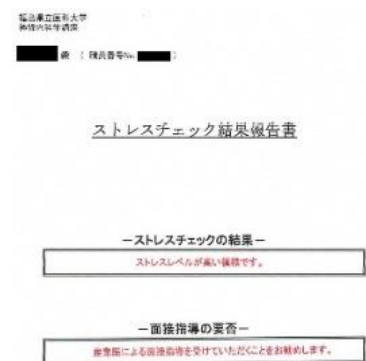


一方、弟子のT尾教授も負けてはいません。私がU川研究室に挨拶に行った20年前、2月だったと思います。寺O教授が外出から研究室に戻っていらしたのですが、なんとコート+上着+上着と何故かジャケットを2着重ね着していました。これが東京のファッションかと北海道から上京したばかりの当時の私は感動したのですが、根っからの都会人のH島教授にとっても、意表を突くファッションだったそうです。その後、実家で母に見つかり、それはやめると懇願されたそうです。そんなT尾教授もSwedenのUmeå Universityという白夜があるような場所に留学されすっかり寒さに強くなったようです。先日のヨコハマの学会では夕食後に上着は脱ぎ捨て、コートだけ着て帰宅しようとして、店員さんが

追いかけてきました。師匠のU川教授は相変わらずの寒がりですが、寺O教授改は暑がりになってしまったのでしょうか？

さて、本年度は奇しくもH島教授が御座します鳥取県で起きた元横綱の事件を受け、私は医局忘年会には参加を自粛させられましたが、代わって医局の未来について熱く語り合っていた医局員がいたそうで、参加できず、とても残念です。そのため、ストレスもタマル一方で、職場のストレスチェックに引っかかってしまいました。

このままではいけません。医局新年会ではこの鬱憤をはらすべく、これぞ、U川教授の弟子と呼ばれるように暴言を吐きまくって大暴れしたいと思います。



そうそう、高齢のじゃなくて恒例のU川教授からの年間着信回数ですが、12月13日現在、486回です。この数字は全着信回数の実に79.7%が宇G教授からの着信であったということになります。しかし、2017年も2週間あまり残っていますので、まだまだ、予断を許しません。2016年との比較では580回から16%の大幅減です。月平均にして48.3回から40.5回への減少しております。考察としては、今年は例年にもまして宇G教授の海外出張回数が多かったためと考えます。まあ、海外からも平気で書けてくるのですが、自分がいるところの時間が世界の標準という考えを多少お改めいただき、時差をある程度勘案していただけるようになったのは有り難いことです。師匠の愛を感じる今日この頃です。

それでは皆様良いお年をお迎えください。